

人と防災未来センター 平成 23 年度事業評価

評価単位	評定	委員コメント
展示事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国からの来館者が減っているが、前年度の東日本大震災の影響であろう。やむを得ないが、これをどのようにして回復させるかが問題であろう。 <li style="padding-left: 20px;">平成 21 年度もインフルエンザの影響で一時的に減少したが、その後、旧に復した。津波、放射能の件は規模が違う。 ・ 今後の回復が期待される。
資料収集 ・ 保存事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本の資料収集については河北新報や雑誌ではなく、二次資料による物が多かったがやむを得ない。 ・ 阪神・淡路大震災と他の震災とでは扱いが違うのは仕方ない。 ・ 阪神・淡路大震災の資料については、収集した資料（映像も含めて）を必要とする者や組織での活用が容易になるような途が望まれる。また、当センターの資料がどのように使われたかを記録しておくのが望ましい。
実践的な防災研究 と若手防災専門家の 育成事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究に関しては毎年見解が分かれているが、23 年度は東日本大震災という特殊な状況の中でのことであり、中期計画に悖ることがあってもやむを得ない。 ・ 若手研究者には滅多に経験をし得ない機会に出会えたという観点に立てば活動は評価に値する。
災害対策専門職員の 育成事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ トップフォーラムに関しては毎年高い評価を得てきた。しかし、23 年度は東日本大震災の調査研究と支援を特に推進したため、これまでのように準備のための人手をかけられない状況にあった。 ・ トップフォーラム以外の人材育成にも力を入れることが望まれる。 ・ 他の組織でも類似の事業が行われており、先鞭を付けた点では評価すべきであろう。
災害対応の 現地支援事業	S	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度はほぼ全員が S 評価をしており、その努力は多とすべきであろう。 ・ 大災害が起きていない年の、この事業のあり方には一考を要するのではないか。
交流ネットワーク 事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本項目については評価が分かれた。 ・ センターとしては 5 千人にも及ぶ研修受講者を出し、ネットワークを構築していると自己評価しているが、評価軸が分かりにくい。すなわち、数の議論と事業の中身の重点の置き方が明瞭ではない。 ・ 今後、センター長としての総括評価を評価資料に添付することを検討するとの提案もあった。

*評価基準（4段階評価）

- S : 大変評価できる
- A : 評価できる
- B : あまり評価できない
- F : 評価できない